

CLIPPEDIMAGE= JP410292340A
PAT-NO: JP410292340A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10292340 A
TITLE: WEEDING INSTRUMENT FOR POLE

PUBN-DATE: November 4, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
TOMITA, SATSUO
URASHIMA, TOMOYASU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME COUNTRY
URASHIMA TOMOYASU N/A

APPL-NO: JP09093567
APPL-DATE: April 11, 1997

INT-CL_(IPC): E01H011/00; E01F015/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent the growing of weeds around the base section of a pole and the damage of a rotary blade for a weeding and bushing machine by fitting a circular collar-shaped weed-proof board, in which a fitting hole is bored at a center and which is made of a flexible elastic material, to the base section of the pole and installing the weed-proof board onto a ground surface.

SOLUTION: A circular pole fitting hole 2 fitted to the whole outside diameter of a pole 4 is bored at a center, and a circular collar-shaped weed-proof board 3 is formed of a flexible elastic material. The weed-proof board 3 is cut obliquely in the radial direction so that parting faces 3a are superposed in the board thickness direction, and the weeding instrument 1 is manufactured. The weed-proof board 3 is opened in the radial direction by the parting faces 3a, the weeding instrument is installed onto a ground surface in the base section of the pole 4 by inserting the fitting hole 2 to the metallic pole 4 driven to the ground surface, and the superposing sections of the parting faces 3a and the fitting hole 2 and the pole 4 are bonded with adhesives. No weed grows in a section, where the weed-proof board 3 is positioned, even when weeds grow around the pole 4 mounting the weeding instrument 1, and no weed grows even from the parting faces 3a. Accordingly when weeds are mown by a weeding and bushing machine, a rotary blade collides with the pole 4 made of a metal, and the damage of the weeding instrument 1 is prevented.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

JP 10-292340
11-1998

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-292340

(43)公開日 平成10年(1998)11月4日

(51)IntCl⁶

識別記号

F I

E 0 1 H 11/00

E 0 1 H 11/00

A

E 0 1 F 15/00

E 0 1 F 15/00

審査請求 未請求 請求項の数7 O L (全 4 頁)

(21)出願番号

特願平9-93567

(22)出願日

平成9年(1997)4月11日

(71)出願人 597051126

浦島 智康

仙台市泉区南光台6丁目31-20

(72)発明者 富田 隆男

名古屋市西区秩父通1丁目58番地

(72)発明者 浦島 智康

仙台市泉区南光台6丁目31-20

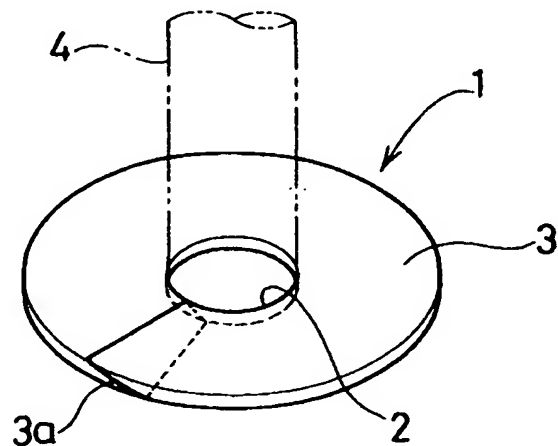
(74)代理人 弁理士 三宅 宏 (外1名)

(54)【発明の名称】 ボール用防草具

(57)【要約】

【課題】 ボールの基部に雑草が生えることを防止し、下刈り機の回転刃を金属製のボールに近づけて下刈りする必要性をなくす。これにより回転刃の破損を防止する。

【解決手段】 中央にボール嵌合穴2を有する鐮状の防草板3と、ボールの外周面に嵌合する嵌合筒7とを一体に形成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 中央にボール嵌合穴を有する鋤状の防草板からなることを特徴とするボール用防草具。

【請求項2】 防草板が可撓性材料で形成され、半径方向に分割されている請求項1記載のボール用防草具。

【請求項3】 中央にボール嵌合穴を有する鋤状の防草板と、ボールの外周面に嵌合する嵌合筒とを一体に形成したことを特徴とするボール用防草具。

【請求項4】 防草板と嵌合筒が夫々可撓性材料で形成されているとともに半径方向に分割されている請求項3記載のボール用防草具。

【請求項5】 嵌合筒の外周面に反射材或いは夜光塗料が施されている請求項3又は4記載のボール用防草具。

【請求項6】 嵌合筒に、これをボールに巻き締めるバンドを備えた請求項4又は5記載のボール用防草具。

【請求項7】 分割面での部材相互を接着するか又はボールに嵌合する面とボールとを接着した請求項4又は5記載のボール用防草具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はボール用防草具に関するもので、より詳しくは、ガードレールのボール等において、そのボールの基部周辺に雑草が生えることを防止するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、ガードレールを支持する金属製のボールや車止め用の金属製ボール等の金属製ボールにおいて、その打ち込まれたボールの基部周辺が土のままでコンクリートが打設されていない場合がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記従来のようにボールの基部周辺が土のままであると、該部に雑草が生える。そのため、この雑草を下刈り機で刈る場合には、その下刈り機の回転刃を金属製のボールの間近まで近づける必要があり、その回転刃が金属製のボールに当たり、回転刃が破損する問題がある。

【0004】そこで本発明は、上記の問題を解決するボール用防草具を提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、請求項1記載の第1の発明は、中央にボール嵌合穴を有する鋤状の防草板からなることを特徴とするものである。

【0006】請求項2記載の第2の発明は、上記防草板が可撓性材料で形成され、半径方向に分割されているものである。請求項3記載の第3の発明は、中央にボール嵌合穴を有する鋤状の防草板と、ボールの外周面に嵌合する嵌合筒とを一体に形成したことを特徴とするものである。

【0007】請求項4記載の第4の発明は、上記第3の

発明において、防草板と嵌合筒が夫々可撓性材料で形成されているとともに半径方向に分割されているものである。請求項5記載の第5の発明は、上記第3又は第4の発明において、嵌合筒の外周面に反射材或いは夜光塗料が施されているものである。

【0008】請求項6記載の第6の発明は、上記第4又は5の発明において、嵌合筒に、これをボールに巻き締めるバンドを備えたものである。そして、請求項7記載の第7の発明は、上記第4又は5の発明において、分割面での部材相互を接着するか又はボールに嵌合する面とボールとを接着したものである。

【0009】

【発明の実施の形態】図に示す実施例に基づいて本発明の実施の形態を説明する。図1及び図2は第1実施例を示す。

【0010】本第1実施例に示す防草具1は、その中央にボール嵌合穴2を形成した円形鋤状の防草板3で形成されている。そのボール嵌合穴2は嵌合すべきボール4の外径に一ばいに嵌る円形に形成され、また防草板3の直径は、所定に設定されるが、例えばボール4の直径を約100mmとすると防草板3の直径を約300mmとする。また、該防草板3は半径方向に分割されているとともに、その分割面3aは、その板厚方向に斜めに切断した重合状態になっている。また、該防草板3は可撓性材料からなり、実施例においては軟質のゴム或いは樹脂材料からなる弾性材料で形成されている。

【0011】本実施例の防草具1を使用する場合は、防草板3を分割面3aによって半径方向に開き、その開口部を通じて地表に打設された金属製のボール4に対して嵌合し、図2に示すようにボール4の基部、すなわち地表面に設置する。

【0012】その後、周辺に雑草5が生えても、防草板3が位置する部分には雑草は生えない。また、分割面3aは上記のように斜めに形成されて重合されているので、該分割部から雑草が生え出ることもない。そのため、下刈り機で雑草を刈る場合には、防草板3よりも外側に生えた雑草を刈ればよい。下刈り機の回転刃を金属製ボール4に近づけて回転刃が金属製のボール4に当たることを防止でき、その回転刃の破損を防止できる。

【0013】なお、上記防草板3を緑色に着色すると、目立たない。なお、ボールへの嵌合後に、上記分割面3aにおける重合された両部材相互を接着剤で接着するか又はボール嵌合穴2の周囲とボール4とを接着して、嵌合後の外れを阻止するとよい。

【0014】また、上記実施例は、防草板3を分割したが、このように分割しないものであっても防草効果は発揮できる。

【0015】図3及び図4は第2実施例を示す。本第2実施例は、上記第1実施例における防草板3のボール嵌

合穴2の周囲に短い周壁6を防草板3と同材により一体に形成したものである。この周壁5も上記分割面3a部で分割されている。

【0016】また、本第2実施例においても、上記第1実施例と同様に、分割面3aで両部材相互を接着するか又はボール4に接着してもよい。

【0017】その他の構造は上記第1実施例と同様である。本第2実施例においても上記第1実施例と同様の作用効果を奏する。また、本実施例における防草板3及び周壁6を分割しないものであっても防草効果は発揮できる。

【0018】図5乃至図7は第3実施例を示す。

【0019】本第3実施例は、上記第2実施例における周壁6を上方へ長く延ばした形状の嵌合筒7を設けたものである。すなわち、本第3実施例は、中央にボール嵌合穴2を形成した鉤状の防草板3と、該防草板3のボール嵌合穴2の周囲に長い筒状の嵌合筒7を、防草板3と同材で一体形成し、かつ、防草板3は半径方向に分割されているとともにその分割面3aを板厚方向に斜めに切断して重合し、更に、嵌合筒7も上記分割面3aの位置で縦方向に分割したものである。

【0020】更に、この防草板3と嵌合筒7は可撓性材料からなり、実施例においては軟質のゴム或いは樹脂材料からなる弾性材料で形成されている。また、防草板3の直径も上記第1実施例と同様である。

【0021】更に、嵌合筒7の分割端は、その一方の分割端7aが、上記防草板3における分割部の一方の端3bと同位置に形成され、他方の分割端7bが、上記防草板3における分割部の他方の端3cと同位置に形成され、嵌合筒7の両端部7c、7dが開口可能に重合するようになっている。

【0022】更に、上記嵌合筒7の一端部7cには、上下に位置して2本のバンド8の一端が定着されており、これを嵌合筒7の外周に巻き締めして他端を図6に示すように係止穴9に挿通することにより、嵌合筒7をボール4の外周に固着保持するようになっている。

【0023】更に、上記嵌合筒7の外周面には反射材や夜光塗料10が施されている。また、防草板3は緑色に着色されている。本第3実施例の防草具1を使用する場合には、防草板3及び嵌合筒7を分割面3a部によって半径方向に開き、その開口部を通じて地表に打設された金属製のボール4に嵌合し、図7に示すように、防草板3がボール4の基部、すなわち地表面に接するようにして設置する。そして、この状態でバンド8の他端部を係止穴9に挿通して止着し、嵌合筒7をボール4に巻き固着する。

【0024】これにより、上記第1実施例で示したように、防草板3により雑草が生えることを防止し、下刈り機の回転刃の破損を防止できる。更に、嵌合筒7の外周面に反射材や夜光塗料10が施されているため、これに

夜間、自動車のヘッドライトが反射して運転者にボールの存在を訴えることができ、安全運転に寄与できる。更に、防草板3が緑色に着色されているので周囲の草の色と合致し、この防草板3が目立たない。

【0025】なお、本第3実施例はバンド8でボール4へ固定するようにしたが、このバンド8を使用することなく、分割面3aの部材相互と嵌合筒7の両端部7c、7d相互の少なくとも一方を接着剤で接着してもよい。また、嵌合筒7をボール4に接着してもよい。このような接着固定を用いることにより、上記のバンド使用によるものに比べて安価であり、かつ取付け後において、いたずら等で取り外されることを防止できる。

【0026】また、本実施例における防草板3及び嵌合筒7を分割せず、またバンド8を有しないものであっても防草効果は発揮できる。

【0027】

【発明の効果】以上のようなことから、請求項1記載の発明によれば、ボール嵌合穴により防草板を、ボールの基部、すなわち、地表面部のボールに嵌合設置することにより、該防草板が存在する部分は雑草が生えない。そのため、下刈り機で雑草を刈る場合には防草板より外側に生えた雑草を刈ればよく、下刈り機の回転刃を金属製のボールの間近まで近づける必要がない。したがって、回転刃が金属製のボール部に当たることを防止でき、回転刃の破損を防止できる。更に、防草板は地表に接して設置されるので、通常、地表の幾分上部において回転刃を移動することから、防草板に回転刃が当たってその防草板が破損することも少ない。

【0028】請求項2記載の発明によれば、更に防草板を分割面から開いてボールに嵌めて設置できるので、ガードレール等が架設されているボールにおいても、そのボールの側方からこの防草板を容易に設置できる。また、既設のボールにも容易に設置できる。

【0029】請求項3記載の発明によれば、更に、嵌合筒の外周面に着色等を施すことができる。請求項4記載の発明によれば、上記請求項1乃至3記載の発明の効果を発揮できる。

【0030】請求項5記載の発明によれば、更に、夜間、自動車のヘッドライトが反射材や夜光塗料に反射して安全運転に寄与できる。請求項6記載の発明によれば、更にバンドにより防草具をボールに確実に固着でき、強風等により外れることを防止できる。

【0031】請求項7記載の発明によれば、ボールに取り付けられた後に、いたずら等で取り外されることを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例を示す斜視図。

【図2】図1の実施例の使用状態を示す図。

【図3】本発明の第2実施例を示す斜視図。

【図4】図3の実施例の使用状態を示す図。

【図5】本発明の第3実施例を示す斜視図。

【図6】図5の実施例におけるバンド部の平断面図。

【図7】図5の実施例の使用状態を示す図。

【符号の説明】

2…嵌合穴

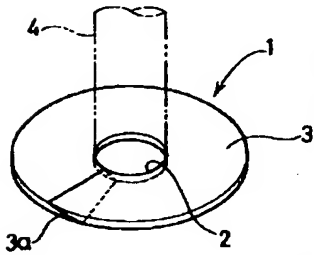
3…防草板

3a…分割部

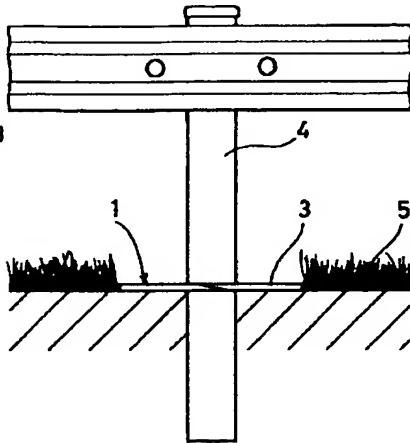
8…バンド

10…塗料

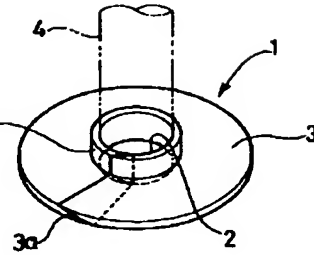
【図1】



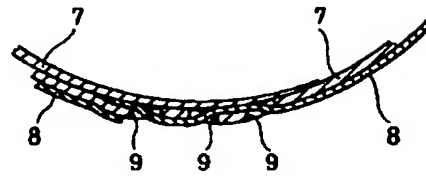
【図2】



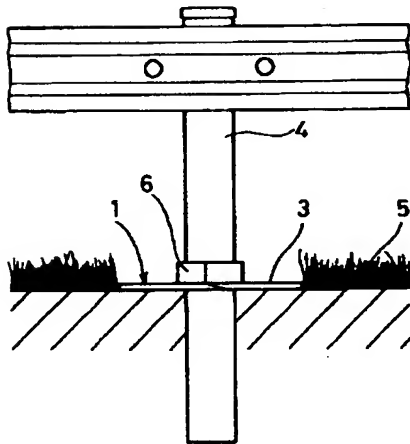
【図3】



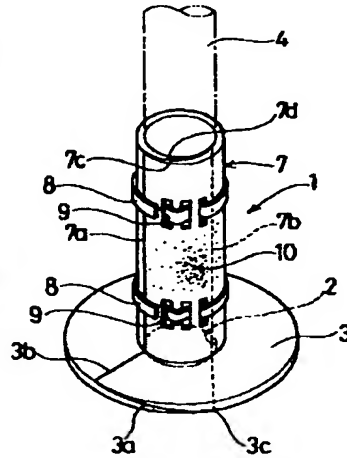
【図6】



【図4】



【図5】



【図7】

